

14 配偶者プログラム

サミット期間中に実施された配偶者プログラムに関しては、豊かな自然や環境に恵まれた本道の魅力がプログラムに盛り込まれるよう、国と連携を図りつつ、様々な情報提供を行った。

結果として、次のとおり、道民会議事業が実施されるとともに、関係団体の協力により道産の菓子や果物が提供され、G8 首脳夫人に北海道の魅力を堪能いただくとともに、取材等を通じて北海道の情報発信が行われた。

(1) 北のまるしえ視察

道内の食材が出展・展示された「北のまるしえ」（真狩村）の視察が行われた（「北のまるしえ」詳細は P144 参照）。G8 首脳夫人は、釣部道議会議長夫妻をはじめ、地元住民による歓迎を受けて、果物、菓子等を試食しながら、地元関係者と親しく交流した。



北のまるしえ内の様子



試食をする G8 夫人

訪問日時	平成20年7月8日(火) 11:45-12:00
参加者	福田総理大臣夫人、ブッシュ米大統領夫人、メドヴェージェフ露大統領夫人、ブラウン英首相夫人、ハーパー加首相夫人、パローゾ欧州委員長夫人
出迎え者	釣部北海道議会議長夫妻、山本副知事夫妻、勝浦JAようてい組合長、佐々木真狩村長 ほか

(2) 北海道情報館視察

「北海道情報館」では、高橋知事の案内により、アイヌ文化や流水等の北海道特有の文化・自然環境に関する展示物の視察が行われ、ザ・ウィンザーホテル洞爺に展示された本道初の国宝である中空土偶の説明も実施した。

高橋知事から、G8 首脳夫人に鑑賞してもらうため、雪で開花を遅らせ、開花したばかりの桜を紹介したところ、G8 首脳夫人から、そのおもてなしに謝意が表明された。また、アイヌ文化のコーナーでは、全員が民族衣装を羽織り、記念写真を撮影するなど、予定時間を超過して滞在いただいた。



アイヌ民族衣装を羽織って記念撮影する首脳夫人

訪問日時	平成20年7月8日(火) 14:48-15:00
参加者	福田総理大臣夫人、ブラウン英首相夫人、ハーパー加首相夫人、パローゾ欧州委員長夫人
出迎え者	高橋知事
視察内容	北海道の気候、暮らし、農業、流水、クリオネ、アイヌ文化



流水を触る G8 首脳夫人

(3)配偶者記念植樹

7月9日、洞爺湖町の有珠山噴火記念公園において、高橋知事及び道内の児童とともに植樹を実施した(記念植樹の詳細は P119 参照)。

15 北方領土問題の理解促進

北方領土問題に対する認識と理解を深めてもらうため、サミット開催に向けて「北海道洞爺湖サミット道民会議ポータルサイト」「北海道情報誌」「プレスツアー」において、国内外への情報発信を行った。特に根室地方を訪問先としたプレスツアーにおいては、参加した10カ国・地域18名の外国人記者等に対し、納沙布岬からの北方領土の視察、道立北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)での根室市長による北方領土問題のレクチャーや元島民へのインタビューの実施など、地域の北方領土返還にかける思い等に関する取材機会を提供した。



「ニ・ホ・ロ」で取材する外国人報道関係者等(2/21)

また、サミット開催期間中においては、国際メディアセンターに設置された「北海道情報館」に北方領土コーナーを設け、説明員を配置してパネルやDVD映像等による北方領土問題の紹介を行った。

このほか、6言語によるパンフレットを作成し関連イベントなどで配布するとともに、サミット開催を見据えて道内6箇所「北方領土パネル展」を実施した。

なお、通訳に携わる方々にも北方領土問題の理解を深めてもらうため、学生ボランティア通訳に対してパンフレットを配付したほか、サミットでの通訳を支援いただいた(財)日本国際協力センター(JICE)研修監理員の方々を対象に、北方領土関係のDVDやパンフレットを活用した勉強会を行った。

一 環 境 一

道民会議では、企画運営部会に経済界、環境関連企業、団体、国の機関等で構成される「環境技術ワーキング」を設置し、環境総合展の開催や道産環境技術の発信・利用促進等に関する提案をまとめ、道民会議の連携事業の創出に反映した。

北海道においては、道民会議の事業計画に呼応し、本道の優れた環境技術・取組の情報発信を行うとともに、道議会と連携し、国に道内の環境技術、環境配慮製品・資材の活用を働きかけた。また、平成20年度政策の展開方針において、サミットを契機とした環境対策の充実に重点的に取り組むこととし、環境意識の向上や地球温暖化対策の加速など環境と調和した地域づくりを推進した。

1 「北海道環境宣言」

北海道では、サミット開催に向けて高まった道民の環境への関心を環境にやさしい行動の実践に結びつけ、北海道らしい環境に配慮したライフスタイルを確立し、環境と調和する「エコアイランド北海道」づくりに道民総意のもとで取り組んでいくことを決意した「北海道環境宣言」を、平成20年4月に発信した。

宣言では、道民一人ひとりが、「地球を守る心」、「もったいない心」、「自然と共生する心」の三つの「北海道環境スピリッツ」をもって、一人一日10% (1.1kg)の二酸化炭素削減をはじめとした環境にやさしい「8つの行動」の実践を、具体的な行動メニュー・事例とともに提案した。

平成20年4月21日(月)に開催した「環境行動シンポジウム2008」において、高橋知事自ら環境宣言のプレゼンテーションを行うなど積極的に発信したほか、サミットが開催された7月を「道民環境行動月間」とし、環境行動の実践を呼びかけるキャンペーンを展開した。

また、YOSAKOIソーラン祭りのマスコットキャラクター「ヨサコイチャピ」を北海道環境大

使に任命し、YOSAKOIソーラン祭りや環境総合展等各種のイベントにおいて環境宣言の普及に活躍いただいた。



北海道環境宣言の概要

サミットの開催気運が高まる中、道内企業・団体から同宣言に対し多くの賛同をいただいたほか、道民からも環境行動の実践に向けた多くのメッセージが寄せられるなど、環境行動実践の環がますます広がっていった。

2 地球温暖化防止対策

北海道は積雪寒冷・広域分散型の地域特性から家庭や運輸部門のCO₂排出量が全国に比べ高い現状にあるため、サミット開催による地球温暖化防止への道民の関心の高まりを生かし、温室効果ガス排出量の削減や環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの定着をめざして、道民、事業者、行政が連携し、「暖房に頼りすぎない冬の暮らし」の実践を促進する「北海道ウォームビズプロジェクト」や「北海道クールビズプロジェクト」、エコドライブ実践講習会の開催など、本道の特徴を生かしたさまざまな取組を展開した。

3 サミット関連情報発信体制

北海道では、「北海道洞爺湖サミット環境局情報サイト」を立ち上げ、道が国・市町村・企業・関係団体等と協力して展開する「北海道洞爺湖サミット・環境リンケージプログラム」や環境に関する「サミットニュース」の紹介など積極的な情報発信を行った。

特に、環境問題をテーマとするセミナー等の開催気運の高まりに応え、これらのセミナー等を「サミットリンケージセミナー」として登録するとともに、開催情報等を紹介し、道民の参加を促した。平成19年8月～平成20年7月で、92件のセミナーやシンポジウムが登録された。

4 道内の新エネルギー・省エネルギー技術のPR等

北海道に優位性のある雪氷や木質バイオマスなどのエネルギー資源を活用した技術や省エネルギー技術について「北海道エネルギーフォーラム」「環境総合展2008」などの各種セミナーやフォーラム、展示商談会などを開催して広く紹介し、理解を深めるとともに、新エネルギー・省エネルギーの開発・導入の促進に関し、顕著な功績のあった個人や団体等を表彰した。

また、道庁敷地内等へ太陽光と風力のハイブリット型発電機の設置を行い、道内企業による先進技術の活用をPRした。

5 子ども達を対象とした環境サミット

サミットの開催を契機に、小学生から高校生までの児童生徒が、地球規模での環境問題について理解を深め、身近にできる取組や本道の自然を守る取組について考える環境サミットが各地で開催された。

このうち、北海道高校生環境サミットや専門高校生による環境サミット、こども環境サミット札幌の参加者は、J8サミット参加者と交流を行った。

(1)北海道高校生環境サミット

8校21名の高校生が一堂に会し、環境問題について意見交換を行い、自らが身近にできることから積極的に環境保全に取り組み、地球や北海道の自然を守ることに最善を尽くす誓いを「高校生サミット宣言」としてまとめ、知事に報告した。

なお、運営に当たっては、道内の16企業・大学に協賛いただき、当日の移動に天然ガス自動車(バス)を使用した。

日時	平成19年10月27日(土)・28日(日)
場所	環境省洞爺湖ビジターセンター
主催	北海道・北海道地方環境事務所
参加	札幌藻岩高校、遺愛女子高校、岩見沢農業高校、上川高校、斜里高校、苫小牧工業高校、洞爺高校、標茶高校
内容	・各校が取り組む環境保全活動の発表 ・国際協力事業団海外研修生との交流 ・環境問題についての意見交換



高校生環境サミットにて宣言書を知事に報告する参加高校生

(2)洞爺湖子ども環境サミット

環境にかかわる国際社会の現状や環境問題への取組についての理解を深め、自然を大切にする心を育むことを目的に「洞爺湖子ども環境サミット」を開催した。

日時	平成20年6月22日(日)
場所	洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校
主催	北海道教育委員会
参加	豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市の小・中学生等
内容	・小中学生による基調提言や環境教育の取組発表・意見交換 ・記念植樹 ・「環境教育等の取組」や「環境に関する標語」のパネル展示

(3) 専門高校生による環境サミット

環境技術に取り組んでいる専門高校の生徒が日頃の成果を広く情報発信することを目的に、道内5つの専門高校生の参加により、環境サミットを開催した。

日時	平成20年7月7日(月)
場所	ホテルライフォート札幌
主催	北海道教育委員会
参加	岩見沢農業高校、帯広農業高校、札幌工業高校、苫小牧工業高校、函館水産高校
内容	・環境保全技術等の研究成果発表 ・生徒によるパネルディスカッション

(4) その他の子どもサミットの開催

子どもを対象とした多彩なサミットが全道各地で展開された。

H20 2月	オホーツク・知床・子ども流氷サミット	網走支庁
5月	子ども宇宙サミット ～美しい星をめざして	苫小牧市
	だて環境子どもサミット	伊達市
6月	J7あびら環境サミット	安平町
	しりべし子ども環境サミット	後志支庁
	のぼりべつこども環境サミット	登別市
7月	こども環境サミット札幌	札幌市
	渡島大沼環境保全高校生サミット	道教育大函館校、渡島支庁等

6 地域発の環境行動

北海道や市町村等が連携し、地域の特色を活かしながら、サミット開催を契機とした地球温暖化などの環境問題や環境保全に向けたイベントを実施し、サミット成功への気運醸成を図るとともに、道民一人ひとりの環境配慮行動を促進した。

【北海道主催の主な取組】

H19 12月-	旅エコプロジェクト(オホーツク流氷トラスト運動)
H20 2月	オホーツク流氷の日の制定とキャンドルスロートナイト(オホーツク流氷トラスト運動)
3月	もっとエコなとかちづくり(3月-7月)
5月	胆振・環境チャレンジ(5月-)
	ねむろ環境フォーラム
6月	国・道・市「都市のみどり」ふれあいラリー2008年
	市民フォーラム「海洋生態系と水産食資源サステナビリティ科学」
	疎水サミットin北海道2008

※その他のサミット関連の地域発の環境行動については、P265参照

7 環境教育

サミットの開催を契機として、本道における環境教育の一層の推進を図るため、北海道教育委員会では、「地域とともに学ぶ高等学校環境教育推進事業」を新たに実施することとし、特に優れた実践研究に取り組む学校として4校を「スーパー・ネイチャー・ハイスクール」に、また、特色ある実践研究に取り組む学校として7校を「環境教育プロジェクト校」に指定した。平成20年度から22年度までの3年間、これらの学校で行われる環境教育に関する実践研究を支援し、その成果の全道的な普及を図ることとしている。

このほか、北海道においては、幼稚園を活用した親子体験型環境教室の実施や環境教育絵本の制作・活用により、環境教育の充実を図ったほか、国や市町村、民間企業等による子どもを対象としたエコイベントが数多く開催された。

8 北の大地の森林づくり等

(1) 森林づくりフォーラムの開催等

北海道では、サミット開催を契機に「木を植える→森を育てる→木を使う」という森林資源の循環的な利用や地球温暖化防止に貢献する森林づくりを広く発信するため、平成20年6月21日(土)、「北の大地の森林づくりフォーラム」を苫小牧市で

開催したほか、森林の現状や間伐などの森林整備の意義等の情報発信、道産木製品とのふれあいの機会などを創出することを目的に、8月9日(土)、10日(日)、札幌市において「北の大地の森林づくり展」を開催、約4,600名が来場した。また、全道各地において、森林での作業等を体験するバスツアー「北の大地の森林循環プロジェクト」が開催された。



「北の大地の森林づくり展」の様子

(2) CO₂の吸収力の高いマツの名称公募と森づくりリレーの実施

道立林業試験場及び林産試験場が共同開発した、地球温暖化防止に貢献する二酸化炭素の吸収力の高い新しいマツの名称を道民から募集、応募総数758件の中から、岩見沢農業高校生の久井信吾さんの「クリーンラーチ」を命名した。

さらに、サミット開催地の洞爺湖周辺6市町村を中心にこのクリーンラーチの苗木と道産間伐材のプランターなどをリレーで届ける森林づくりリレーを実施した。平成20年5月3日(土)に伊達市をスタートし、壮瞥町、豊浦町、中標津町(北海道植樹祭会場)、洞爺湖町、真狩町、留寿都村、苫小牧市(北の大地の森林づくりフォーラム)を經由、6月22日(日)の洞爺湖町(2回目)にゴールインした。



写真左：洞爺湖町での植樹、右：伊達市での植樹

(3) 「サミットの森」の指定

北海道では、平成19年に北海道にて開催された「全国植樹祭」及び北海道洞爺湖サミットを契機に実施された植樹活動等により整備された森林を、「サミットの森」として指定し、サミットの開催に伴い排出される二酸化炭素約2.5万トン、これらの森林を植栽後おおむね30年間森林の整備・保全を行うことにより、吸収する取組を行った。

実施主体の了承を得て全道で53カ所の森林が「サミットの森」として認定され、当該事業には森林吸収量認定書を発行した。

9 知床世界自然遺産等のPR

北海道は、知床世界自然遺産をはじめ、多くの豊かな自然環境に恵まれていることから、国内外の注目を集めるサミットの開催にあわせ、知床やその周辺地域への関心がより一層高まるよう、平成20年3月21日(金)からウェブサイト「eco旅ナビ」の運用を開始した。

このサイトでは季節や目的別に181カ所のエコツアー資源を効率的に巡るモデルルートを紹介しているほか、対象エリアの花や動物、登山、釣りなど、ツアーの魅力を高める豊富な情報をはじめ、貴重な自然環境が将来にわたり損なわれることのないよう、「動植物を採取しない・持ち込まない」や「野生動物に餌付けをしない・必要以上に近づかない」など、エコツアーに必要なルールやマナーについても掲載している。

また、サミット関係者に向けても、「知床DVD」や「パネル展示」「北海道情報誌」「プレスツアー」などさまざまな機会を利用して知床世界自然遺産及び利用ルールの紹介を行った。

— 食 —

1 道産食材の利用促進

(1)道産食材の利用促進

道民会議では、道及び道議会、道内経済団体と連携して、外務省をはじめとする関係省庁に対して要請を行うなど、サミット行事における道産食材の積極的な活用に取り組んだ。

ア 道産食材情報の収集及び活用

道内市町村がサミットに関連した活用を希望する質の高い地元食材の調査を実施し、119市町村から284種類の食材を「サミット向け市町村一押し食材リスト」としてとりまとめ、外務省や関係ホテル等へ提供するとともに道民会議ポータルサイトに掲載するなど、サミット関係施設における活用促進を図った。

【サミット向け市町村一押し食材リストの概要】

区 分	種 類
魚 介 類	67
肉 類	41
野 菜 類	91
果 物	23
乳製品・卵	35
穀 類	27
合 計	284

支 庁	掲載市町村数
石 狩	8
渡 島	8
桧 山	7
後 志	16
空 知	11
上 川	8
留 萌	8
宗 谷	6
網 走	11
胆 振	11
日 高	7
十 勝	8
釧 路	8
根 室	2
計	119

イ 首脳会議場に対する取組

首脳向けの食事については、外務省及び首脳

向けの食事のプロデュースを担当したザ・ウィンザーホテル洞爺の中村総料理長、斉藤顧問、中道顧問に対して上記「サミット向け市町村一押し食材リスト」を提出するとともに、先方からのリクエストに応じて産地等の紹介を行った。こうした取組と相まって、総理大臣夫妻主催社交ディナーや、ワーキングランチ・ディナー、配偶者プログラム、日米首脳会談後の総理大臣夫妻主催夕食会などで道産食材が数多く活用された。



福田総理大臣夫妻主催社交ディナーの様相

ウ 国際メディアセンターに対する取組

国際メディアセンターにおけるプレス関係者向けの食事については、道民会議事務局員が外務省やルスツリゾート及び(社)北海道全調理師会とともに、メニューやコンセプト等の立案・調整の場に参画し、道産食材の活用を働きかけるとともに、外務省から食事提供の委託を受けたルスツリゾートの依頼に基づいて産地等の紹介を行ったほか、料理名や食材の英訳などのキャプションづくりに対する支援を実施した。

また、外務省及び(社)北海道全調理師会、(社)全日本司厨士協会北海道地方本部と連携して、国際メディアセンター・ザ・メインから一番近いレストラン(オクトーバーフェスト/コスタテラッザ)に対して、道内ホテル調理師の派遣依頼や派遣者の衛生検査のとりまとめなどの支援を行った。この結果、7月3日(木)から10日(木)までの間、札幌グランドホテル、札幌パークホテル、ポールスター札幌、札幌全日空ホテ

ル、札幌プリンスホテル、京王プラザホテル札幌、(株)北海道全調理師会から13名の調理師がボランティアで派遣され、道産食材の特長を生かした料理を提供した。

同レストラン入口において道産食材や農村景観のプロモーション映像を放映するとともに、「北海道大地と海の食材マップ」を配布するなど、国際メディアセンターを利用する国内外の報道関係者に対して本道農業及び道産食材のPRを実施した。

さらに、「北海道情報館」において、道産のチーズやワインなどの試食・試飲を実施するなど、報道関係者等に対する情報発信に努めた。



国際メディアセンターレストラン（オクトーバーフェスト）

エ その他関係施設に対する取組

アウトリーチの国々やG8各国政府職員などが滞在した札幌市内や洞爺湖畔のホテルに対しては、5月27日(火)に「道産食材でサミットをお迎えする集い」を札幌市内で開催し、旬の食材の試食などを通じて各ホテルの料理長等に道産食材の質の高さを再認識いただくとともに、サミットに訪れるお客さまを良質な道産食材でお迎えするための気運醸成に努めた。

【「道産食材でサミットをお迎えする集い」】

《日時》 5月27日(火) 14:00 - 17:00

《場所》 ほくでん電化生活情報館マドレ

《講演》

- ・「サミットに際した食事への期待」

武田外務省大臣官房 G8 サミット準備事務

局課長補佐

- ・「道産食材の魅力とブランド化へのヒント」
齊藤「料理通信」編集顧問(ザ・ウィンザーホテル洞爺顧問)

- ・「食の安全安心に向けた取組について」

小野塚北海道農政部食品政策課長

《試食会》

(株)全日本司厨士協会北海道地方本部の協力を得て、「市町村一押し食材リスト」掲載食材を「煮る」「焼く」などのシンプルな調理を実施して、来場者に試食提供。

種別	出品数
肉類	牛肉(6)、豚肉(8)、鶏肉(2)、羊肉(2)、鹿肉(2)
貝類	アワビ(4)、ツブ(1)、ホタテ(9)
魚類	エビ(4)、カニ(1)、カレイ(3)、ヒラメ(1)、キチジ(1)
乳製品	牛乳(9)、ナチュラルチーズ(34)
野菜	アスパラガス(9)、ジャガイモ(7)、ゆりね(2)



「道産食材でサミットをお迎えする集い」試食会の模様

オ 配偶者プログラムに対する取組

首脳配偶者に良質な道産菓子を提供するため、有識者から構成される「道産菓子検討委員会」を設置し、(財)北海道洋菓子協会と連携して道内菓子メーカー等から菓子を募集するとともに、応募のあった製品全てに同委員会の意見を付して外務省へ推薦した。

この結果、配偶者プログラムにおいて、7月8日(火)の国際メディアセンター（ゼロエミッションハウス）視察の際に(株)柳月から提供されたチーズケーキが、7月9日(水)のJ8との交流(洞爺湖ビジターセンター)の際に、(株)きの

とや、(株)パールモンドール、(有)ステラ・マリス、(株)菓子の樹、リヴゴージュ・ドゥ・ラセヌ、スイートレディージェーン、(株)ホリ、(株)壺屋総本店、手作りケーキ・シャモニーから提供されたクッキーが、採用された。

更に、7月8日(火)の国際メディアセンター(ゼロエミッションハウス)視察の際には、夕張市農業協同組合から提供された夕張メロンも採用された。



配偶者プログラムに採用されたクッキー

(2) サミット活用食材リスト

サミット終了後、道民会議では、首脳会議場や国際メディアセンター、配偶者プログラムにおいて、首脳、首脳夫人、シェルパ、報道関係者等に提供された食材を生産者や市町村等を通じて調査し、その結果をもとにホテル関係者の確認が得られた、75市町村の210品の道産食材を「サミット活用食材リスト」として公表した。

道民会議では、本リスト及びリストに掲載された食材を「北海道洞爺湖サミット展」で紹介するとともに、生産者や地域による食のブランドづくりに活用されるよう、道民会議ポータルサイトへの掲載や関係機関へ提供を行った。

【サミット活用食材リストの概要】

・提供先ごとの活用状況

提供先	水産物	畜産物	乳製品	農産物	その他	計
首脳	6	8	6	5	5	30
配偶者プログラム	4	3	0	9	11	27
シェルパ等	1	7	15	10	15	48
報道関係者	20	14	29	27	49	139
総計	31 (30)	32 (26)	50 (36)	51 (46)	80 (72)	244 (210)

・地域ごとの活用状況

支 庁	市町村数	食材数
石 狩	4	24
渡 島	5	13
檜 山	3	4
後 志	10	44
空 知	8	9
上 川	6	16
留 萌	3	4
宗 谷	3	4
網 走	5	11
胆 振	8	39
日 高	4	4
十 勝	9	22
釧 路	4	11
根 室	3	5
合 計	75	210

2 食の連携・クオリティーアッププロジェクト

北海道漁業協同組合連合会とホクレン農業協同組合連合会は、道民会議企画運営部会の「道産食材利用促進ワーキング」の検討を踏まえ、道民会議への協賛事業として、北海道の農畜産物や水産物を紹介するパンフレット「北海道大地と海の食材マップ」を日本語版22,000部、英語版8,000部作成した。

このマップは、新千歳空港や環境総合展、国際メディアセンターで、サミット関係者や道民等に配布されるとともに、国内外報道関係者への広報資料セットとしても活用した。



北海道大地と海の食材マップ

北海道では、新たな宿泊(食事)ブランドの確立や道内宿泊施設利用者の食事満足度アップ、北海道の食材の消費拡大、地産地消の推進を図るため、サミット開催地である洞爺湖温泉においても、宿泊施設や一次産業者が連携した新商品の開発や宿泊地におけるフェアを実施した。

また、北海道の安全・安心で高品質な農水産物を積極的に利用してもらうため、北海道こだわりの食材を情報提供し、道産品をPRした。

一 観 光

道民会議では、企画運営部会に経済界、旅行観光団体・企業や北海道、国の機関等で構成される「観光振興プログラムワーキング」を設置し、花によるおもてなしや空き店舗を活用した観光PR等に関する提案をまとめ、道民会議の連携事業の創出に反映した。

北海道では、平成19年10月1日(水)に洞爺湖町で開催した国の観光立国推進戦略会議にて、北海道の魅力の発信と観光振興に向けた説明・要望を行い、これを踏まえ、同会議では11月に「北海道洞爺湖サミットを契機とした北海道・日本の魅力の世界への発信及び観光振興に関する提言」をまとめ、国、地域、経済界連携による各種の取組の促進が図られた。また、サミットの開催を契機とした国際会議等誘致の取組強化についての気運が高まる中、平成20年7月4日(金)、政府は「国際会議等の北海道開催の推進について」閣議了

解を行い、国として国際会議等の北海道開催の推進に取り組んでいくことが明らかにされた。

国際会議等の北海道開催の推進に関する閣議了解

国際会議等の北海道開催の推進について

〔平成20年7月4日〕
閣 議 了 解

1. 本日閣議決定された「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」においては、「アジアに輝く北の拠点～開かれた競争力ある北海道の実現」を戦略的目標のひとつとして掲げ、北海道洞爺湖サミットの開催等を活用し、国際会議や国際的な規模で開催される行事の誘致を促進することとされている。
北海道では、サミットの開催を契機に、従来から進めてきた国際会議等の誘致の取組を強化することとしており、政府としても、新たな北海道総合開発計画を着実に推進する観点から、北海道による取組の強化に応じて今後必要な支援を行っていくこととする。なお、民間の国際会議等の北海道開催につき、民間にも協力を求めていくものとする。
2. 上記の必要な支援を行っていくために、各省庁連絡会議を設け、所要の調整を行うこととし、その庶務は国土交通省において処理する。

1 観光プロモーションの強化

サミット開催で海外の注目が高まる好機を生かし、北海道の魅力を売り出すPR素材(9言語によるパンフレット・DVD)を制作し、マスコミ、政府視察団、観光関係者等への提供、ホームページでの発信等により、「サミット開催地：北海道の観光」を国内外にアピールした。

また、市場の拡大が期待される東アジア地域などで開催される国際旅行博覧会への出展(台湾、香港、中国、韓国、シンガポール、オーストラリア)、道内観光関係者で組織する訪問団の派遣によるトップセールス(平成19年：中国、台湾)などを通じて、現地の旅行会社、航空会社等を対象に宣伝誘致活動を実施した。

2 北海道ならではのニューツーリズムの推進

平成 19 年 9 月 11 日(火)、北海道運輸局、北海道、日本観光協会北海道支部、北海道観光連盟、北海道観光戦略会議の共催により、サミットに向けた観光振興をテーマとしたセミナーを開催するとともに、サミットを契機とした北海道の自然環境への関心の高まりに合わせ、いやしや健康などをテーマにゆっくりと滞在し心身ともにリフレッシュしていただく「ゆとりツーリズム」を提言し、その魅力づくりに取り組んだ。特に平成 20 年 5 月 28 日(水)には、東京都内で知事によるトップセールスや神宮球場における PR イベントを行った。



神宮球場における PR イベント

3 外国人観光客受入環境の整備

平成 20 年度に地域限定通訳案内士制度を導入するなど、地域の実情に精通した通訳ガイドの育成やビジット・ジャパン案内所の設置促進、外国人観光客接遇研修用資料の作成、配布などに取り組み、外国人観光客の受入環境の整備を進めた。

— 芸術文化 —

1 国宝・中空土偶

サミット開催期間中、首脳会議場となる「ザ・ウインザーホテル洞爺」に、昭和 56 年に旧南茅部村で出土し、本道初の国宝に指定された「中空土偶」(函館市立博物館所蔵)が展示された。展示に当たっては、函館市教育委員会が英語と仏語の説明文を作成し、造形の美しさや縄文時代の人々の精神性が伝わる文化遺産として、北海道の歴史を世界に発信した。

また、サミットに向けて、こうした北海道の縄文文化を世界に紹介するため、「北の縄文文化を発信する会」では、本道の縄文文化を紹介したホームページを日本語・英語で作成し、道民会議ポータルサイトにもリンクバナーを設け、情報発信を行った。



中空土偶

2 アイヌ文化

サミットの開催に合わせ、アイヌの伝統や文化に関する知識の普及啓発を図ることを目的として、アイヌの伝統等を題材に作成された幼児向け絵本の原画やアイヌの伝統的な工芸技術を用いて製作された工芸品等を展示公開した。

さらに、アイヌ工芸品の製作技術の向上と芸術創作活動の振興を図ることを目的として、アイヌ伝統技術を用いた工芸品やそれらを活用した現代

的創作作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、応募作品を展示してアイヌ工芸作品の鑑賞機会を提供する「アイヌ工芸作品コンテスト」を実施した。

(各国先遣隊歓迎夕食会における伝統芸能の披露は P74 を参照)

3 北海道開拓の村

北海道開拓期の生活・産業・文化や本道の歴史・文化・自然を来道する方々に広く紹介するため、北海道開拓の村に外国語ボランティアや多言語での解説書を配置したほか、日本の伝統文化である「生け花」の紹介や体験、菓子職人による昔の菓子作りの実演を行った。

また、7月8日(火)には、J8 サミット参加者と道内の子どもたちが同村内で交流を深めた。

4 各種行事における伝統芸能等の紹介

道民会議では、主催するレセプションやプレスツアーにおいて、道内各地の伝統芸能を紹介し、道内外に本道の文化の発信に努めた。

- ・フォーリン・プレス・センタープレスツアー
(平成 19 年 8 月)
くっちゃん羊蹄太鼓
- ・北海道洞爺湖サミットの夕べ(平成 19 年 11 月)
伊藤多喜雄氏のソーラン節・稚内南中ソーラン(踊り)
- ・第 1 回プレスツアー (平成 19 年 11 月)
阿寒アイヌコタンにおけるアイヌ舞踊
- ・第 2 回プレスツアー (平成 19 年 12 月)
江差追分、松前神楽、小樽潮太鼓・音頭
- ・第 3 回プレスツアー (平成 20 年 2 月)
ねむろ太鼓
- ・第 4 回プレスツアー (平成 20 年 4 月)
新十津川町子供太鼓「鼓狸」、三笠北海盆踊り、
白老ポロトコタンにおけるアイヌ舞踊
- ・第 5 回プレスツアー (平成 20 年 5 月)
羽幌町こきりこ唄、稚内南中ソーラン(踊り)